

# 共同研究 「物語と現代社会」

## 最終報告

秋田 巖・森 俊夫

今回は最終報告であるので、三年間の成果をすべて報告することにより、何がなされたかを語りたいと思う。なお、研究支援課の立石尚史さんに三年間にわたって多大なるご援助を賜った。この場を借りて深謝したい。

### ●公開講演会

テーマ：伝統芸能に学ぶ～能と物語

講師：小川佳世子

(京都造形芸術大学 非常勤講師)

日時：2006年10月18日(水) 13:00～14:30

場所：京都文教大学 普照館 F306教室

### ●公開講演会

テーマ：非行少年との神話(ミソ) ドラマ・ワーク

講師：アラン・グッゲンビュール(ユング派分析家、IKM(コンフリクト対応・神話ドラマ研究所 所長)

日時：2006年11月8日(水) 13:00-14:30

場所：京都文教大学 常照館 J302教室

### ●公開講演会

テーマ：「オーラソーマの世界」

講師：羽田 貴子

(Mクリニック耳鼻咽喉科)

日時：2007年2月7日(水) 13:00～14:30

場所：京都文教大学 普照館 F306教室

### ●公開講演会

テーマ：「漫画家からみた『マンガ』」

講師：おがわさとし(漫画家・京都精華大学マンガ学部講師)

日時：2007年5月30日(水) 13:00-14:30

会場：京都文教大学 常照館 J307教室

### ●公開講演会

テーマ：「現代美術からみえてくるもの

ーポーランドと日本の比較からー」

講師：加須屋明子

(国立国際美術館主任研究員)

日時：2007年11月14日(水) 13:00～14:30

会場：京都文教大学 弘誓館 G104教室

### ●公開講演会および実演

(京都文教大学健康管理センターとの共催)

テーマ：「狂言に学ぶ～古典芸能と日本の精神性～」

講師：善竹忠重、善竹忠亮、牟田素之

(大蔵流狂言師)

日時：2007年12月19日(水) 13:00～14:30

場所：京都文教大学 弘誓館 G101教室

### ●公開講演会

テーマ：「戦後日本美術の物語：その西欧における受容」

講師：光山清子(元・原美術館学芸員、現・英国在住フリーランス・リサーチャー)

日時：2008年1月9日(水) 13:00～14:30

会場：京都文教大学 弘誓館 G102教室

## ●公開講演会および実演

(京都文教大学健康管理センターとの共催)

テーマ:「～能に学ぶ～古典芸能と日本の精神性」

講師:村山 弘(脇 高安流能役者)

日時:2008年1月23日(水) 13:00-14:30

場所:京都文教大学 弘誓館 G101教室

## ●公開講演会

テーマ:「能における心と魂について」

講師:小川佳世子

(京都造形芸術大学 非常勤講師)

日時:2008年2月27日(水) 13:00-14:30

場所:京都文教大学 普照館 F232教室

## ●公開講演会

テーマ:「日本と西洋の心理療法について」

講師名:Doris Lier (ドリス・リエール)

日時:2008年4月23日(水) 18:00-19:30

会場:京都文教大学

普照館2階共同研究室 F232

## ●公開講演会

テーマ:「心霊写真と日本の精神性」

講演:「心霊写真の現在」

講師:前川 修

(神戸大学人文学研究科准教授)

日時:2008年11月12日(水) 13:00-14:30

会場:京都文教大学 弘誓館 G101教室

## ●公開講演会

(企画:「物語と現代社会」主催:人間学研究所; 京都文教大学臨床心理学部、京都文教大学健康管理センターとの共催)

テーマ:「現代演劇と物語」

講師名:坂手洋二(劇作家)

日時:2008年11月26日(水) 13:00-14:30

会場:京都文教大学 弘誓館 G101教室

## ●公開講演会および実演

(京都グリーンレオクラブ、京都文教大学臨床心理学部、京都文教大学健康管理センターとの共催)

テーマ:「能をめづ 京(みやこ)うたい」

講師:橋本忠樹

(観世流シテ方橋本磯道長男・橋本聲吟社主宰)

演目:「融(とおる)」

日時:2009年1月14日(水) 13:00-14:30

会場:京都文教大学 弘誓館 G101教室

## ●公開講演会および実演

(京都文教大学臨床心理学部、京都文教大学健康管理センターとの共催)

テーマ:「和太鼓と日本の精神性」

日時:平成21年1月28日(水) 午後1時～2時半

会場:京都文教大学 弘誓館G101教室

出演者:山口幹文(鼓童)

伊藤隆史・寺田仁史・中橋甲介・

藤松正人・松村美智子(仁)

なお、論文として得られた成果には以下のものがあり、全て人間学研究誌上において発表された。

## 2006年度

●「英国のコンテンポラリー・アートとポスト・モダニズムの諸相－ターナー賞ノミネート作品に見る物語性を考察する－」森 俊夫

●「人形浄瑠璃とロボットアニメ－身体性と投影の視点から－」名取 琢自

## 2007年度

●「思春期・青春危機における老婆イメージと『悪・性』」今井 皖式

## 2008年度

●「夢幻能における『名ノリ』について」

小川 佳世子(依頼論文)

●「アヂシキタカヒコネノカミはなぜ“大御神”なのか」秋田 巖